

平成30年度 第2回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

1 日時 平成30年11月15日(木) 午後1時30分～3時

2 会場 窪田空穂生家

3 出席者

(1) 委員側

飯沼秀文委員、折井理智子委員、上條宏之委員、来嶋靖生委員、
窪田武夫委員、坂口登美子委員、塚田道彦委員、渡邊正明委員 8名
※欠席：篠弘委員 1名

(2) 市側

山村事業担当係長、土屋庶務係長、勝野分館長、小暮主事(学芸員)

4 平成30年度事業報告

(1) 短歌講座について

ア 全国的に文学館の講座は人が集まらなくなっている。今までの常連が高齢化して
外出が困難になっていることが一番の要因。20～30人来てもらえるのはありが
たいことだとは思いますが、ここから人が増える方法を考えていきたい。(委員)

(2) 企画展について

ア 空穂記念館として島秋人は何度か取り上げているが、年数が経つと島秋人を知ら
ない人も多くなる。やる意味はあったと思う。良い内容のものはくり返しやる意味が
ある。人のいのちに触れるような企画がまたあればいいと思う。(委員)

イ 来館者の様子はどうか。(委員長)

→高齢の方が特に多い印象。島秋人を目当てに来館する人も多い。どの人もじっくり
見て感想を述べてくれる傾向がある。(学芸員)

ウ 新聞等でも取り上げられて反響があったようである。(委員長)

(3) 子どもの短歌について

ア 選者の一人が空穂会のことを引き継ぐことになるかもしれない。記念館に顔を出
す機会も出てくると思う。(委員)

(4) 七夕について

ア 七夕飾りは地域でやっているか。(委員長)

→今年は公民館で七夕人形作りの講座をやっている。(委員)

イ 小中学校では何かやるのか。(委員長)

→中学校は総合的な学習の時間を使って学習しているところもある。(委員)

ウ 七夕人形の本館での扱いはどのようなようであるか。(委員長)

→常設展示室で展示している。七夕人形の説明や、軒下に吊るす復元展示がある。また、市民と協同で七夕人形づくり講座を行っている。学校で出前講座を行うこともある。(係長)

エ 子どもたちの宇宙への関心は高まっている。七夕にこだわらず宇宙の歌なら子どもたちも詠んでくれるのではないか。(委員)

(5) 学校との連携について

ア 松本大学との連携は教育学部ができたことが大きいのか。(委員長)

→教育学部ができて国語の担当の先生が入ったことが要因のひとつ。(分館長)

イ 教職員の研修はどのようなことをやるのか。(委員長)

→今年行なったことは館内の見学と解説。空穂や記念館のことを知ってもらった。去年は短歌づくりの研修もした。(分館長)

ウ 研修を受けた先生のクラスの歌は全然違う。歌作りの研修は効果がある。(委員)

エ 芝沢小は多面的に関わっているように見えるが(委員長)

→場所が近いこともあり身近な存在になっている。特に3年生の地域学習には必ず記念館がコースに入っている。また、清掃委員会も恒例になっている。今年は箒を買ってもらったので、それを使って来年も続けていきたい。恒例になっているもの以外でも広げていけたらと考えてはいる。(委員)

オ 中学校は何か特別な交流の時間があるのか(委員長)

→高綱中は地域交流の時間がある。(分館長)

(6) 茶会について

ア 青年部の茶会をやらせてもらった。斬新でおもしろい茶会になった。また、空穂という人物を知って皆喜んでいた。庭と一体になっている生家が好きだと言っている会員が多くいる。(委員)

イ 表千家は細々になった。お手伝いできることがあれば。(口委員)

(7) 施設について

ア 駐車場にある木を切ってもらっても構わないと思っている。記念館設立当初に庭を兼ねた駐車場にしようと思って庭師と相談して植えたものだが、今では非常に大きくなり、来館者が車をぶつけてしまうこともある。(委員)

5 平成31年度事業計画

(1) 空穂会との連携事業について

ア 短歌講座は毎年の課題ではあるが、参加者の減少傾向を何とかしたい。子どもの短歌についてはここまでやってきたのだからできれば続けていってもらいたい。また、できれば入賞した人には今後も短歌を続けてもらいたいが、まだあまりその兆候がない。何か関心をもってもらえるようなことを考えていきたい。

他所の記念館は空穂記念館に関心があるようである。空穂記念館の事業を取りい

れようとしているところもある。他館から見れば空穂記念館は良くやっているという意見もある。(委員)

(2) その他

ア 来館者の感想ノートはなかなか面白い。もっと増えると良い。そこから見えてくる課題もあると思う。(委員)

イ 茶会の際に空穂の愛用品まで出してもらってありがたかった。(委員)

→青年部の方たちが非常に勉強熱心で事前に何度も足をはこんで準備をされていた。(分館長)

ウ 本館から見た空穂記念館の特徴はどのようなようであるか。(委員長)

→本館は歴史と民族の展示が中心であり文学面が薄いため、文学に関する問合せがあった際には空穂記念館を案内している。(係長)

エ 事業計画の課題は何かあるか。(委員長)

→短歌講座の呼びかけ範囲を広げていきたい。また、茶会の青年部の方にイベントがあればいくらかでもやると言ってもらっているため、複合的な催しを考えていきたい。(分館長)

オ お茶会のことが気になる。お茶会の方に場所を気に入ってもらえたのはありがたいこと。是非また何かやってもらいたい。(委員)

カ 記念館もスタート当初に比べると事業が拡大してきているが、これをこれからどう継続していくかが課題でもあり、ひとつの大きな転機でもある。(委員長)

キ ありがたいことは将棋やお茶の人たちと交流があること。そういった関係がいずれ突破口になるかもしれない。(委員)

ク 公民館も人集めには苦勞している。せつかく同じ地域に公民館と記念館と福祉広場があるので、それぞれが連携できれば良い。地域の結社・短歌愛好者との連携は空穂記念館の大元だと思う。連携しながらその活動を何とか活発にできないかと思う。(委員)

ケ 小中学校との連携が多くなってきてはいるが、教育政策のコミュニティスクール事業の一環で来てくれているのだと思う。空穂記念館と囲碁将棋の結びつきが定着してきているように、政策が代わろうと、学校とのつながりが定着して行ってほしい。(委員)

コ 地域の要望をどう組織化していくかが課題。対策を考えていきたい。(委員長)